神戸新聞 2014年10月11日 土曜日 面名 朝三 １３ 3ページ

人

六甲山大学実行委員長に就任した

服部（はっとり） 保（たもつ）さん

六甲山の活性化を目指し、自然や環境を生かしたイベントなどの情報を発信する「六甲山大学」の第2代実行委員長に就任した。「都会に近く、自然も素晴らしい山。市民に、『登りたい』と思ってもらえる魅力を伝えていきたい」と抱負を語る。

神奈川県出身。小学校の時に伊丹へ引っ越した。高校の時、レイチェル・カーソンの「沈黙の春」を読んだのが、環境保護に興味を持つきっかけとなった。農薬などの化学物質が生態系を破壊することを警告したノンフィクション。日本でも公害問題が浮上していた時期だけに、思春期の心を刺激した。

神戸大学農学部で、植物生態学に取り組んだ。六甲山は庭のような存在。授業の合間の山歩きは、楽しみでもあり、研究の素地づくりにもなった。

1992年に姫路工業大学（現・兵庫県立大学）の自然・環境科学研究所の教授に就任。六甲山に本格的に関わり始めた。阪神・淡路大震災の影響を調べるため、植物分布図の作成にも尽力した。

「都市山」という概念を提唱する。六甲山のほか北海道の函館山、京都の比叡山も含まれ、「観光や生涯学習などに生かしやすい」という。

「六甲山は和歌山や中国地方など六つの地域に連なり、各地域由来の多様な生物が生息する。活性化と環境保全の両面から新しい森づくりを考えたい」。静かな語り口に情熱がにじむ。

兵庫県立大学名誉教授。66歳。伊丹市内の自宅に妻と長男の3人暮らし。

（記事・津谷治英、写真・後藤亮平）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。